

平山郁夫シルクロード美術館 News

The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No.25

2020年3月発行



平山郁夫《燦・瀬戸内(輝く瀬戸内海)》1997年 43.0×100.0cm

平山郁夫は、1930(昭和5)年6月15日、瀬戸内海の中央に位置する生口島の瀬戸田町(現・尾道市瀬戸田町)で生まれました。幼い頃から瀬戸内海がそばにあり、毎日のように泳いでいたと言います。泳ぎと共に絵を描くことも好きな少年であり、この島での生活環境が「色彩や造形に対する感性を育ててくれた」と言い、生口島や瀬戸内海は画家にとって原点でもありました。

平山は1945(昭和20)年8月6日、広島市で被爆し、九死に一生を得ながら、ふるさとである生口島へ帰郷しました。島に戻ってからの生活は「瀬戸内海の風景が、心温まる安らぎを与えてくれた」と言い、その後は16歳で島を出て東京美術学校(現・東京藝術大学)へ入学。日々、日本画の制作に励み、青年期には生口島を題材とした牧歌的な風景画などを数多く描きました。その後、ふるさとの作品を発表するのは、1990年以降の平成時代に入ってからで、度重なるシルクロードの旅に出る中で、改めて日本文化の素晴らしさを知り、その一つとして生口島などに関する作品を描いていきます。画家はこれらを描く中で、以下のような思いを持っていました。

「私が幼い頃、生口島周辺の佐木島、大三島、伯方島などは、それこそ手を伸ばせば届きそうなほど近くに見えた。が、それぞれの島を結ぶ交通手段は唯一船だけ…交通が不便だったゆえに、各島々に早くから独自の文化や生活が営まれてきた。…道(瀬戸内しまなみ海道)がつながったことで…自分たちが独自に育んできた文化を守りつつ、利便性だけに流されることなく、各島々が発展していくことを望んでいる。」

平山郁夫「夢の懸け橋・しまなみ海道」

(『平山郁夫 平成の画業① 日本の街道』講談社・2002年)より



平山郁夫シルクロード美術館

展覧会紹介 The Hirayama Ikuo Silk Road Museum Exhibition

平山郁夫 ふるさと広島を描く

2020年3月7日(土)～6月23日(火) ※会期中無休



《漁夫》
1958年
平山郁夫美術館 蔵



《厳島神社 社殿 宮島》
1993年
朝日生命保険相互会社 蔵

平山郁夫は、1968年から日本文化の源流を求め、仏教伝来の道でもあるシルクロードを旅し、平和を祈りながら描き続けた、戦後を代表する日本画家であります。その原点は、生まれ故郷である広島県の生口島(現・尾道市瀬戸田町)にあり、穏やかな瀬戸内海と緑豊かな自然が画家としての感性を育みました。本年は、平山郁夫の「生誕90年」にあたりこれを記念して、画家の故郷である生口島や宮島などの古社寺、そして瀬戸内しまなみ海道などを描いた「広島」に関する作品を一堂に紹介します。

※表紙の作品《燦・瀬戸内(輝く瀬戸内海)》も同展にて公開

Information ●

- ◆会 期 2020年3月7日(土)～6月23日(火) ※会期中無休
※3月7日(土)～3月20日(金)の期間は、新型コロナウイルス感染症の感染予防および拡散防止のため臨時休館としました。
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観 覧 料 一般1200円/高・大学生800円/小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主 催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後 援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、読売新聞甲府支局、信濃毎日新聞社、八ヶ岳ジャーナル、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム八ヶ岳

次回の展覧会案内

「平山郁夫の足跡をたどる 日本の古社寺と文化財保護」展

2020年6月27日(土)～12月27日(日)
※会期中無休

《平成の洛中洛外 右隻》2003年



他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション(国内展)

- ◆平山郁夫美術館「世界遺産 敦煌」展
2019年12月2日(月)～2020年4月15日(水) 内容:絵画17点
- ◆茨城県近代美術館「平山郁夫 シルクロードコレクション」展
(朝日新聞社 巡回展)
2020年4月25日(土)～6月14日(日) 予定 内容:絵画50点、コレクション180点
- ◆古代オリエント博物館「女神繚乱-時空を超えた女神たちの系譜-」展
2020年10月5日(月)～12月13日(日) 予定 内容:コレクション約50点
- ◆さくら市ミュージアム(栃木県)
「平山郁夫 日本の心(仮称)」
2021年1月23日(土)～3月14日(日) 予定
内容:絵画約80点

美校(東京美術学校)で一番真面目だった平山郁夫 平山郁夫シルクロード美術館名誉館長 平山美知子

美校を出ただけで画家でも何でも無い私が、画家・平山郁夫の取材旅行に百何十回もついてゆけたのは、世の中の人からみると不思議に思われると思います。

昭和20年、日本が敗戦した時、美校(現・東京藝術大学)は女性も受験できるようになりました。私は何事にも出来が悪く、父母の心配の種だったと思いますが、昭和22年、美校の入学試験に合格し、皆驚いたと思います。日本画科に合格したのは16人で、その中に女性は5人でした。戦後間もない時ですから合格者の年齢はばらばらでした。平山君は一番若い男性4人のうちの1人でした。



美校1年生の受け持ちの山本丘人先生のアルバムから
前列の1番左が平山美知子、後列左から2番目が平山郁夫。

1年の受け持ちの先生は山本丘人先生でした。他の先生方は安田靫彦先生、小林古径先生、奥村土牛先生、田中青坪先生といった方々でしたが、私たち新入生は日本画が何かよく分からぬ生徒だったのです。私は横山大観しか知らなかったと思います。油絵画科の受験生は40人に1人という厳しさですから受験しても合格は無理と思い日本画にした人もいたと思います。ですからわたしたちは勉強しなければならない事がたくさんありました。同級生は東京より地方出身の人が多く、日本画だけでなく、良いといわれる展覧会は何でも、歌舞伎や博物館などみな揃って出かけました。

日本画の材料は他とは違い、紙、絵絹、筆、鉱物を粉にした絵の具、膠といった特殊なものですからお金がかかります。家にたまたま兄のつかいふるした木版の彫刻刀があったので小さい蠟燭を彫ったら思いがけず兄に褒められたので、日本画よりも版画に熱中しました。版画協会などに出席し、賞をもらいサロン・ド・プランタン展では賞と賞金までもりました。デッサンが未経験でしたので美校でのデッサン教室と、浅尾画材店のデッサン教室にも通いました。

4年生の12月頃、それまで話した事なかった平山君が代々木の我が家に訪ねて来ました。1月までに絵を出さないと卒業できないのです。それに版画では駄目だということで、急いで下級生に頼み、モデルになってもらって「坐像」を描きました。

安田先生方は皆変わられ、前田青邨先生になっていました。私が卒業



卒業制作「坐像」のための
デッサン6点の内の1点
下級生の山野さんをモデル
としたもの

できたのは平山君のおかげだったと思います。その上、美校は芸術大学になっていたのですが、その芸大の日本画科の無給の副手になったのもクラスの幹事をしていた平山君が先生方に奨めてくれたのだと思います。

平山君と副手になった教官室には立派な画家の方も次々に来られました。その様な日本画家の話を聞くのも勉強になります。それまであまり男性と話をする事もなかったのですが、平山君とはやり易く話し合う事がありました。代々木の我が家にも彼は来る様になり、私の家族とも話し合うようになりました。私は3年で副手を辞め、実は画家になるのもやめ、平山君と前田青邨夫妻の御媒酌で結婚いたしました。

平山は広島県の生口島出身で、中学は広島市の修道中学3年にいたので原爆を受けていたのです。結婚間もなく白血球が通常の半分くらいになり苦しい日々が続いたと思います。その事は人にも学校(芸大)にも知らせぬ様に頑張っていたのです。彼は死ぬ前に自分の生きた証しの様な絵を描いておきたいと言い、世界美術全集の中のフランスのクリュニー美術館の中にあるタペストリーの様子に、地面に美しく明るい花が咲き、木々が風にそよぎ、小鳥が舞い囀っているような明るい楽しい絵を描きたいといていたのですが、その頃読んだ「大唐西域記」を書いた玄奘が当時中国に伝わった仏教の真の姿を知りたくて当時鎖国していた長安の国禁を犯して出国し、その後16年かけて仏教の経典を沢山得て、喜び勇んで帰国の途中に立ち寄ったオアシスでの玄奘の喜ぶ様子を描くと良いと思っていた時、ローマで開かれるオリンピックに向かってオリンピックの聖火がギリシャからローマに向かっての駅伝(長距離のリレー競争)の事が新聞に載っていたのを平山が読んで「玄奘は一人で走ったのだ、すごいな。」と言っていました。

平山はそれを「仏教伝来」として絵に描き、秋の院展に出品しました。平入選だったのですが、当時第一の絵の評論家の河北倫明先生の目にとまり大画家の先生方のあとに平入選の「仏教伝来」もよいと朝日新聞に書いて下さった事が平山の大きな励ましとなり、病気の苦しみは何もなかった様に元気になり次々に仏教関連の絵を描き続けていったのです。

この「仏教伝来」が薬師寺の「大唐西域殿」になりそれが52年後には上野の国立博物館で展示していただける(縦2.2メートル、横約127メートル7面の大壁画を平成12年12月31日薬師寺に奉納)迄になった事は平山もきっと両手をあげて喜んでいる事と思います。



2019年 化石発掘体験報告

平山郁夫シルクロード美術館 理事長
平山 廉

もはや恒例となった夏休みイベントとして「化石発掘体験」が平山郁夫シルクロード美術館の2階野外ステージで実施されました。7月13日のプレに始まり、8月4日まで延べ16日間にわたって開催され、参加者総数は1797名に達しました。1日平均して120名のお客さんが参加したことになります。

イベントの内容はこれまでとほぼ同じで以下の通りです。

①中生代白亜紀の琥珀(こはく)や化石の産地として知られる



2019年7月12日の朝、岩手県久慈市から9千万年前の地層が土嚢袋(総数689袋)に詰められて美術館に届きました。

岩手県久慈市の発掘調査現場の地層(久慈層群玉川層:約9000万年前)を土嚢袋に詰めたものを久慈琥珀博物館から当美術館に運ぶ(7月12日)。

②ビニールシート(最多で5枚)の上に土嚢袋の中に入った地層を払って参加者に化石や琥珀を探してもらう。

③見つけた化石は、講師である私や、入れ替わりで体験講師を務めていただいた大倉正敏さん(日本古生物学学会会員)、および鶴野光さん(早稲田大学招聘講師)が鑑定。貴重であると判定された化石は「プレミア化石」として寄贈していただき、発見者の記念写真と共に館内に展示する。「プレミア化石」は後の貴重な研究資料となる。

というもの。これを毎日10時30分、13時、15時スタートの3部に分けて発掘体験会を実施しました。見つけた「プレミア化石」は合計で248点にもなりましたが、これはこれまでで最多の記録となりました。ワニ、恐竜(竜脚類)、サメなどの歯、カメの甲羅、コプロライト(糞の化石)、虫などが入った琥珀、また「マユもどき」と関係者から呼ばれている謎の化石などです。ほとん



ビニールシートに払げた9千万年前の地層から化石を探しているところです(8月3日)。



体験終了後は参加者全員で記念撮影(7月16日)。昨年に続いて渡部真人さんが前半の発掘体験講師を務めてくれました。

どの化石が日本では久慈市でしか見つからない貴重なものばかりです。参加者の皆さんは初め静かに集中して化石を探していますが、見つけた化石が「プレミア」と認定されると一気に場内のボルテージがヒートアップして、「プレミア化石」が続々と見つかるようになります。残念ながらプレミアを見つけられなかったお客さんも琥珀や炭になった植物の化石などを見つけて満足していただいたようです。琥珀といえども、日本では久慈でしか見つからない9000万年前の樹脂の化石であり、花粉など肉眼では見えない細かい化石や当時の空気の泡が中に閉じ込められているのです。

化石発掘体験に参加していただいた皆様、特に子供たちの熱意にはスタッフ一同感銘を受けています。中にはスタッフ全員に「恐竜うちわ」をプレゼントしてくれたお子さんもいます。化石発掘体験が始まった2016年は参加者のほとんどが山梨県在住の方でしたが、2017年からはチラシなどの宣伝が行き届いてきたせいもあって長野県など山梨県外からの参加者も目立ってきました。2020年の夏も大好評につき化石発掘体験の第5弾を予定しています。7月11日と12日にプレがあり、7月18日から8月2日まで14日間の開催を予定しています。この夏も大発見をめざして平山郁夫シルクロード美術館に集まりましょう!



化石発掘体験に何度も参加していただいているお子さんから美術館スタッフに恐竜のイラストを描いたうちわをプレゼントしてくれました。どうもありがとう!



7月14日に見つけた大型恐竜(竜脚類)の歯。最高のプレミア化石の一つでした。川上村からいらした6歳の子供さんによる大発見です。



これはサメの歯です。保存が良く、歯根などが残っています。サメの歯は22本が見つかりました。

中国における「平山郁夫シルクロード美術館文物展」巡回について⁽¹⁾

平山郁夫シルクロード美術館 館長 平山 東子

一昨年の夏、敦煌で開幕した「平山郁夫のシルクロード世界—平山郁夫シルクロード美術館文物展」(2018年8月1日～10月31日)を起点として、現在、中国で当館の巡回展が開催されています。展覧会は、敦煌のあと、北京、西安、瀋陽、洛陽を巡り、昨年12月28日から深圳博物館を回っています(2月3日現在、会場は新型コロナの感染拡大の影響により封鎖中とのことです)。この展覧会が始まった時は、これほど長い巡回をすることになるとは思いもよみませんでした、このようなプロジェクトもそうあることではないので、展覧会の経緯をここに報告させていただくことにしました。

中国で当館のコレクション展を開催するという話は数年前より、日中の各方面の方から頂いていたのですが、条件も手続きも難しゅうななか実現しませんでした。しかし、2018年は日中友好40周年の節目ということで、敦煌研究院の王旭東院長(当時、現在は故宫博物院院長)のお声がかりで、黄山美術社の企画により本展の開催が決定しました。会場となった「敦煌石窟文物保护陈列研究センター」はかつて、敦煌莫高窟における文化財保護活動の拠点として平山郁夫が2億円の寄付をして1994年に完成した建物で、敦煌莫高窟の真向いにあります。

関係者のあいだで慎重な協議が重ねられ、会場下見の後、敦煌研究院から羅慶華副院長と専門家による考察団が来日し、当館の所蔵品のなかから、ガンダーラの仏像を中心にシルクロードの美術品と敦煌を題材にした平山郁夫作品(素描とスケッチブック)8点を含めた192点が出品作品として選ばれました。なかには350キロもあるアマラバティの浮彫もあり、これらの作品を一体どうやって運び出すのかと思いましたが、開催の約2カ月前の6月末には、すべての出品作品が専門業者の手で厳重に梱包され、美専トラック数台



が、開催の約2カ月前の6月末には、すべての出品作品が専門業者の手で厳重に梱包され、美専トラック数台

で美術館から搬出されました。

10年前に北京の中国博物館で開催された平山郁夫展のときは、出品作品(絵画)は空輸で運ばれたのですが、今回は石製の彫刻が非常に重く、総重量は約5トンになったため、海上輸送が一番良いということになりました。作品は40個の専用クレート(木箱)につめられ、大井埠頭から天津港に向けてコンテナ船で出発しました。天津の港で作品は専用の大型車両に移され、鄭州、西安、蘭州を移動、4日間かけて敦煌研究院につきました。それから通関を済ませて、敦煌の研究センターの会場で開梱されたのは、7月末、開幕の約1週間前のことでした。八ヶ岳の当館を出てから約1か月、192点の作品は、多くの人の手を経てシルクロードの東の果てから西へと旅し、それも駱駝の背に揺られて、ではなく、空調免震装置付きトレーラーでシルクロードを約2500キロ移動し、西域への里帰りを無事果たしたのでした。



◆賛助会を10年継続していただいた会員様のご紹介

感謝の気持ちを込めてご芳名を掲載させていただきます。

【個人会員】(五十音順) 矢代 若葉様 山田 ミヤ子様 湯浅 芳雄様

【家族会員】浅岡 正玄様 浅岡 洋子様

◆第10回 シルクロード研究会の報告

2月16日(日)、春の風が吹く鎌倉のアトリエ(庫庵)において、第10回シルクロード研究会を開催致しました。今回のテーマは「美術を科学するー当館所蔵の仏教壁画断片コレクションを中心にー」とし、科学的調査を行った当館の西域壁画断片コレクションの報告と、それらに関連する内容を専門家のお二人にお話しいただきました。今回の講師は、谷口陽子先生(筑波大学 人文社会系 准教授)、成田朱美先生(愛知県立芸術大学 文化財修復研究所 研究員)であり、谷口先生は「中央アジアの壁画の技法と材料」について、また成田先生は「デジタルマイクロスコープで観察するダンダンウイルクの技法と材料」という内容で、実際に調査で使われたデジタルマイクロスコープを用いながら、当館所蔵の西域壁画断片を一点取り上げて確認しました。お二人の先生による研究成果は、最新の科学技術から読み取れる情報をもとにしたもので、参加者一同、普段の目視では得られない新たな内容に驚きと歓声が上がりました。講演後は、参加者全員で当館のコレクションを鑑賞し、会場にいた一同、先生たちによる研究成果を振り返りながら、心行くまで楽しみました。



谷口先生講演



成田先生講演

◆日中観光代表者フォーラム開催

日本と中国の交流拡大を目指す「第1回日中観光代表者フォーラム」が12月5日(木)、北杜市で開催され、両国の交流人口を1,500万人に増やす目標実現に向け「一層の協力と連携を図る」とした「山梨宣言」が採択されました。フォーラムには、関係団体の幹部や政府高官の皆様約300名が参加し、実行委員会の最高顧問を務めた自民党の二階俊博幹事長は、「両国の交流はかつてない規模に発展している。フォーラムは観光交流の発展にとって大きな1ページになる」と挨拶されました。また、長崎幸太郎山梨県知事は、四川省との友好都市締結が来年35周年を迎えることを踏まえ、「友好都市2・0構想」を打ち出し、平山郁夫シルクロード美術館を日中文化の交流拠点とする考えを示しました。

フォーラム終了後には、赤羽一嘉国土交通大臣や李金早中華人民共和国文化旅遊部副部長をはじめ、フォーラムに参加した約80名が平山郁夫シルクロード美術館に来館し、館内見学のと、2階カフェにおいて山梨県産ワインの試飲(おつまみ提供/レストラン亜絲花)と共に、姜暁艷様による「特別記念二胡コンサート」をお楽しみいただきました。



Royal Hotelハケ岳で開催されたフォーラムの様子



平山郁夫シルクロード美術館
見学



山梨県産ワイン試飲



おつまみ(レストラン亜絲花提供)



特別記念
二胡コンサート

○ワークショップ



トルコ料理で
シルクロードを学ぼう

- 開催日: 2019年3月30日(土)
- 講師: 藁谷和紀
- 参加者: 8名



シルクロードの相思豆を使ったストラップ作り
絵手紙を描こう

- (甲府アイメッセ・夏休み自由研究プロジェクト)
- 講師: 美術館スタッフ4名
- 参加者: 87名



恐竜ジオラマ作り体験

- 開催日: 2019年7月20日(土)、21日(日)
- 講師: 宮沢叔恵
- 参加者: 62名



日本画・
不思議な絵の具で遊ぼう

- 開催日: 2019年5月18日(土)
- 講師: 金子仁香
- 参加者: 9名



復元画ワークショップ

- 開催日: 2019年8月3日(土)、4日(日)
- 講師: 小田隆
- 参加者: 36名



ティラノサウルス
頭部復元模型製作

- 開催日: 2019年8月17日(土)、18日(日)
- 講師: 徳川広和
- 参加者: 40名



恐竜全身復元模型製作

- 開催日: 2019年8月18日(日)
- 講師: 徳川広和
- 参加者: 16名

○開館15周年記念式典 -芸術文化と地方創生-

- 開催日: 2019年8月26日(月)



○講演会

「平山郁夫を偲ぶ」

- 2019年6月15日(土)
- 講師: 青柳正規、平山美知子
- 参加者: 150名

「平山郁夫を偲ぶ」

- 2019年12月2日(月)
- 講師: 宮廻正明、平山美知子
- 参加者: 103名

○第9回絵手紙コンテスト受賞式

- 2019年6月15日(土)
- 参加者: 7名

○第12回平山郁夫絵画教室作品展示

- 期間: 2019年12月13日(金)～12月27日(金)

○スクールプログラム

- 4月 11日 甲陵中学校44名(展覧会見学)
- 5月 19日 東京外国語大学ペルシア語専攻30名(展覧会見学)
- 5月 20日 北杜市立小淵沢中学校1年生75名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
- 5月 11日 椋山女子学園大学付属小学校 6年生94名(展覧会見学)
- 6月 20日 北杜市立長坂小学校3年生49名(展覧会見学)
- 8月 5日 茨城県立古河中等教育学校 中学生13名高校生2名(展覧会見学)

○トークイベント

小川忠博写真展

オープニングトークショー

- 2019年9月21日(土)
- 講師: 滝口和男、小川忠博
- 参加者: 53名



○演奏会

北杜高校ギター部演奏会

- 演奏者: 北杜高校ギター部1、2年生
- 参加者: 205名

中央アジア～トルコの弦楽器の響き～

～吟遊詩人の伝統、民謡、そして王朝の響き～

- 2019年9月28日(土)
- 演奏者: 大平清(トルコ音楽演奏家)
- 参加者: 70名



2020年上期 開館カレンダー

4April							5May							6June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4						1	2		1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30			24/31	25	26	27	28	29	30	28	29	30	展示替のため休館			

7July							8August							9September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30			

3/7～6/23 「平山郁夫 ふるさと広島を描く」

6/27～12/27 「平山郁夫の足跡をたどる 日本の古社寺と文化財保護」展

7/11～8/31 コーナー展示「荻野慎譜 3D骨格(仮)」展

10/26～12/27 平山美知子展(仮)

※6/24～26 展示替えのため休館

※上記以外、4月～9月は休みなく開館

※冬季及び展示替え期間は休館

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

- ◆会費 個人会員…… 10,000 円
家族会員…… 15,000 円
法人会員…… 100,000 円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

ロゴマークグッズのご紹介

使いやすいサイズのトートバッグや、地元作家によるガラスの箸置き、ペンダントトップなどオリジナルグッズを販売しています。美術館にお越しの際は、お土産に如何でしょうか?

美術館ロゴマークについて

7～8世紀頃、シルクロードの中央(現ウズベキスタン中部)にあつて、東西交流の主役を演じた民族ソグドの錦の文様に基づいて、平山美知子名誉館長が制作した版面によるものです。



連珠の中の鳥は鴨で、頭にリボンを飾り、頸飾りを銜えています。もとの図案では、一対の聖樹の上に乗る形で表されています。中央アジアで、広く愛好されたシルクロードを象徴する文様です。



平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第25号 2020年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C023103